

生物・生態系環境研究分野(総合)

委員会からの主要意見

現状についての評価・質問等

- 研究は着実に高度化している。また、環境省との意見交換、地方環境研究所との連携も進んでおり、生物・生態系環境研究の中核的役割を果たしている。[年度]
- リスク評価やシナリオ分析のモデル等が多数開発されつつあることは評価できる。ただ、その精度や信頼性の検証がどこまで進んでいるか、予測結果にどの程度責任を持てるか、不明である。[事後]

今後への期待など

- なりわいの中の環境を考えたい。[年度]
- 長期研究であるため、福島原発事故の前後で研究がどのように変わったのかも判りやすく示してほしい。[事後]
- 多く提案されている具体策については、今後の実装に続く成果検証が必要となる。[事後]

主要意見に対する国環研の考え方

- ①多くの結果については統計処理を行ってその妥当性を検証しておりますが、将来予測など不確実性を多く含む事象があることも確かです。予測シナリオに関しては、他センターや所外の方々と連携して取り組んでいく所存です。
- ②なりわいは資源利用、自然資本や生態系サービスとも密接に関わる問題ですので今後も意識して研究を推進して参ります。
- ③研究成果の実装に関しましては、他センターとも協働し、さらに行政機関のみならず NGO の方々とも協働して進めて参ります。